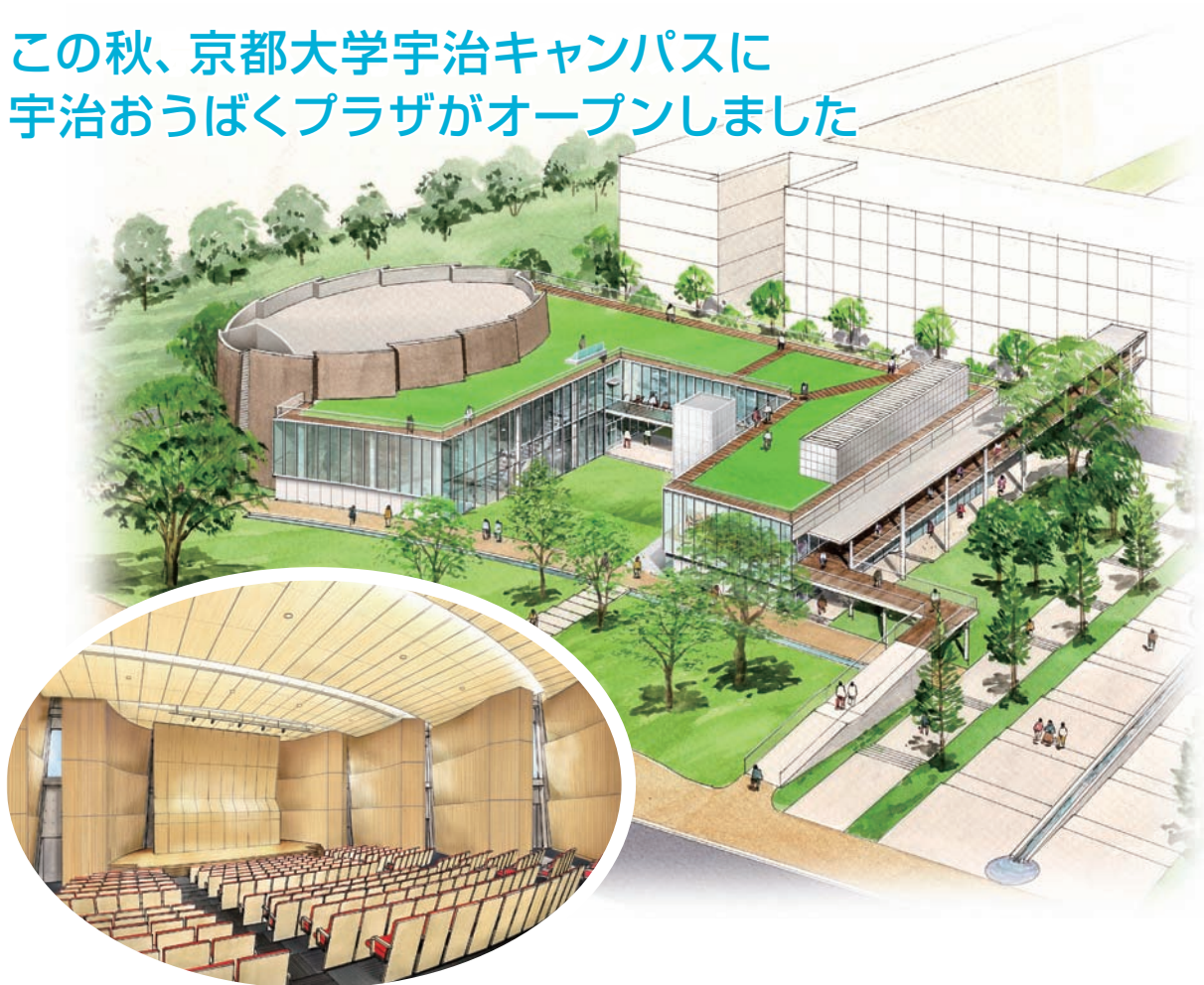


宇治おうばくプラザ紹介

この秋、京都大学宇治キャンパスに
宇治おうばくプラザがオープンしました



ただいま使用予約受付中

- きはだホールは利用日の1年前から、セミナー室は6ヶ月前から予約可能です。
- 利用可能時間：午前9時～午後8時30分（年末年始を除く）
- 施設使用料等：

	使用料(1時間)	収容人数	ご利用いただける設備
きはだホール	10,000円	約300名	・ポスターパネル
セミナー室1	2,000円	約30名	・プロジェクター
セミナー室2	1,000円	約18名	・スクリーン
セミナー室3	1,000円	約18名	
セミナー室4	2,000円	約30名	
セミナー室5	2,000円	約24名	

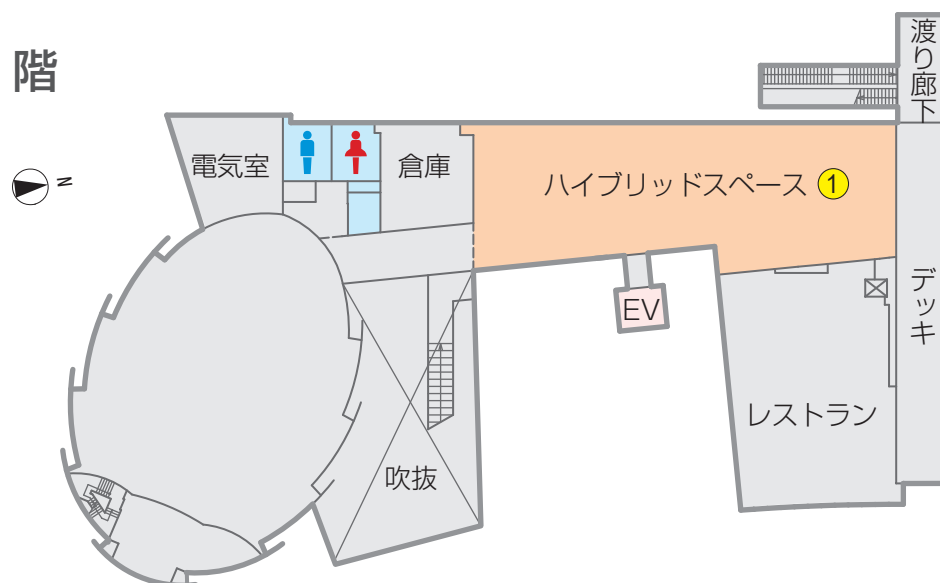
セミナー室1と2、セミナー室4と5は間仕切りを取って使用可能です。

- 申 込 先：下記担当まで電話またはメールにて施設名、日程、使用目的等についてご連絡ください。
メールにてお申し込みの際は、ご担当者の連絡先を明記してください。

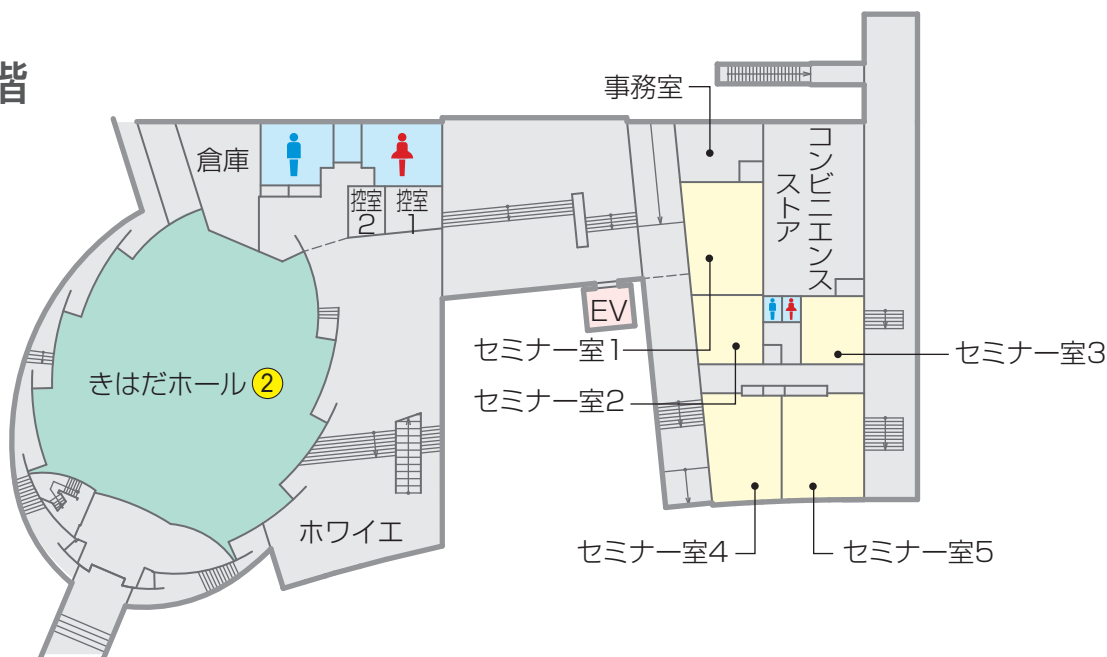
担当：京都大学宇治おうばくプラザ事務室
〒611-0011 宇治市五ヶ庄
Tel:0774-38-4384（平日9時から17時まで）
e-mail:obaku@uji.kyoto-u.ac.jp

館内マップ

2 階



1 階



「きはだ」のお話し

中国の福建省、キハダ（黄檗）の木が生い茂る黄檗山に萬福寺というお寺がありました。そこにおられたのが隠元禪師。明から清王朝への変遷にともなう衰退する萬福寺の状況と、禪宗の立て直しにと禪師を日本に招こうという徳川家の思惑とが奏して、禪師の来日が実現します。1658年、禪師は4代将軍家綱にまみえ、その翌年日本黄檗宗の開宗を許可されました。現在の場所に本家中国と名前も同じ、黄檗山萬福寺が完成するのは1680年代のことです。黄檗山萬福寺はあついで加護を受けた徳川の家紋を寺紋としますが、門などは典型的な中国式ですし、また南洋から輸入したチークを使った京都でもユニークなお寺です。

さて黄檗とは 学名: *Phellodendron amurense* (アムール産のコレクの木)、和名キハダ、樹高約25メートル、樹幹直径約1メートルに達するミカン科の落葉高木です。剥離直後の内皮が鮮やかな黄色を呈することからこの名がつけました。内皮にはベルベリンや少量のパルマチンというアルカロイドを含んでいて大層苦く、古来より健胃、利尿の有名な漢方薬です。350年の歴史のロマンをかき立てるご当地の樹。萬福寺境内に2本、宇治キャンパスに4本植栽されていますので探してみてください。

生存圏研究所教授 杉山 淳司